

テレビアニメの影響により
治療トレーニングに支障をきたした
う蝕を有する低年齢女児の
継続的口腔管理の一例

○ 柚木園 藍

医)イシタニ小児・矯正歯科クリニック

【目的】

当クリニックでは患者の継続的な管理の中で起こる様々な歯科的問題について、独自に考案した口腔管理の見取図（マイ・マネジメントマップ）¹⁾を活用しており、その中心的役割を歯科衛生士が担っている。今回、恐怖心の強い低年齢児における治療トレーニングを行うにあたっての、歯科衛生士としての役割について症例提示する。

【症例】

患者：S・I

初診時年齢：3歳8か月 女児

主訴：う蝕治療及び定期管理希望

現病歴：市の検診でう蝕を指摘され、近医である当クリニックに来院した。

既往歴：歯科受診経験ならびに治療経験なし。
その他：特記事項なし。

【管理上の問題点とその対応】

成育環境については、一人っ子で生活全般が患児中心に動いており、間食は好きな時に好きなだけ摂っている生活背景があった。そこで、家庭内で間食の回数・時間を決めることを提案し、間食内容の改善指導を行った。

口腔衛生状態については、初診時のプラークスコアは高く、昼食後のブラッシング及びフロス使用の習慣がなかった。そこで、毎食後のブラッシングとフロス使用の重要性について理解してもらい、毎回の実地指導の中で細目に確認を行うことにより双方の習慣化につなげることができた。

初診時に撮影したデンタルエックス線写真において隣接面う蝕が確認され、保護者の希望により治療トレーニングを開始した。まもなくして、患児がテレビアニメの中で歯科治療の恐怖心を煽るシーンを視聴してしまったために、トレーニングを進めるにあたって大きな支障をきたしてしまった。そのため、結果的に1年以上のトレーニング期間を要してしましたが、患児の恐怖心を取り除き、行動管理上の問題もなく、う蝕治療を行うことができた。

また、トレーニング期間が長引いたために、う蝕の進行が懸念された。しかし、その間に保護者とのコミュニケーションをさらに深め、ホームケアに対する協力度が非常に高かったこともあり、初診時からう蝕の進行は、ほとんど認められなかった。

【考察】

一般に子どもの歯科への強い恐怖心は、歯科医院や他の医療機関での経験によるところが大きく、当クリニックにおいても恐怖心を取り除くために、様々な工夫を積み重ねている。

本症例は、医療機関以外での経験によって、患児の歯科治療への恐怖心が大きくなり、長期のトレーニング期間を要してしました。しかし、担当歯科衛生士として根気強く対応することにより、患児や保護者との十分なコミュニケーションを図ることができ、最終的には患児が恐怖心を克服し協力的にう蝕治療に臨むことができたと考えている。

現在は継続的な口腔管理中であるが、う蝕の再発もなく、口腔衛生状態はおおむね良好に推移している。

今回の経験を歯科への恐怖心を持つ子どもとその保護者に対するきめの細かな対応に活かしていきたいと考えている。

【文献】

1) 石谷徳人：時間軸を見据えた小児期からの咬合治療 My management map の理解と包括的な口腔管理, 東京臨床出版, 東京, 2014.